

平成22年度
教育委員会事務の点検・評価報告書
(対象：平成21年度事業)

平成22年10月

光市教育委員会

はじめに

光市教育委員会では、毎年度の教育方針を定めるとともに、光市総合計画の施策に基づき策定した「光市教育行政重点施策」を定め、明日の光市を担う人づくりに取り組んでいるところであります。

この「光市教育行政重点施策」に基いた事業・施策については、これまでも主要な事業の進捗状況や成果について検証をしておりますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが定められました。

光市教育委員会では、昨年度から「教育行政重点施策」に基いた事業・施策への取組状況について点検及び評価を行い、学識経験者の意見を付して、報告書にまとめています。

この報告書を公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進してまいります。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

1	教育委員会における事務の点検・評価について	1
(1)	平成21年度光市教育行政重点施策	1
(2)	事業・施策の点検・評価方法について	1
(3)	点検・評価の結果	1
	点検・評価の内訳	2
(4)	点検・評価の結果	4
ア	(ア)～(ウ) 安全で快適な教育環境の整備・充実	4
イ	(ア)～(ロ) 個性や特性を重視した質の高い学校教育の推進	7
ウ	(ア)～(イ) 豊かな人間関係の基盤をつくる人権教育の推進	17
エ	(ア)～(エ) 豊かな人生を創出する共創・協働の生涯学習の推進	19
オ	(ア)～(ウ) 芸術・文化活動の振興と地域文化の保存・継承	23
カ	(ア)～(ウ) 次代を担う青少年の健全育成	26
キ	(ア)～(イ) 生涯学習、情報発信の拠点としての図書館の充実	29
ク	(ア)～(ウ) 伸びゆく力を育てるスポーツ・レクリエーションの振興	31
ケ	(ア)～(エ) 自然の恵みに感謝する心を育む学校給食の充実	34
コ	(ア)～(ウ) 教育開発研究所における調査研究の充実・深化	38
2	学識経験者による意見	41
(1)	点検・評価の各項目について	41
(2)	点検・評価全体について	45
3	今後の取組について	45

1 教育委員会における事務の点検・評価について

(1) 平成21年度光市教育行政重点施策

私たちの暮らしを取り巻く社会情勢は、急速な国際化、高度情報化の進展、地球規模での環境問題、少子高齢化の進行など大きく変化しており、また、国を挙げての教育再生・教育改革が進む中、心豊かな子どもの育成・彩り豊かな人づくり・かおり高い文化の創造のための事業・施策を推進していくことは、光市のまちづくりの基本理念（「共創と協働で育むまちづくり」）に沿った「人を育み、人が活躍するまち」の実現に不可欠です。

こうした時代の変化や市民のニーズに柔軟かつ的確に対応していくとともに、新世紀にふさわしい人材を育成するため、平成21年度は、以下の10項目を「平成21年度光市教育行政重点施策」に掲げ、これに沿った各種事業・施策の推進に努めました。

- ア 安全で快適な教育環境の整備・充実
- イ 個性や特性を重視した質の高い学校教育の推進
- ウ 豊かな人間関係の基盤をつくる人権教育の推進
- エ 豊かな人生を創出する共創・協働の生涯学習の推進
- オ 芸術・文化活動の振興と地域文化の保存・継承
- カ 次代を担う青少年の健全育成
- キ 生涯学習、情報発信の拠点施設としての図書館の充実
- ク 伸びゆく力を育てるスポーツ・レクリエーションの振興
- ケ 自然の恵みに感謝する心を育む学校給食の充実
- コ 教育開発研究所における調査研究の充実・深化

(2) 事業・施策の点検・評価方法について

今回の点検・評価の対象は、「平成21年度光市教育行政重点施策」の10項目の重点施策に沿った37の事業・施策とし、関係各課が点検・評価を行いました。

なお、点検・評価の結果を客観的に判断するため、「①予算・決算額から見た実施状況」、「②事業の目標に対する実施状況」、「③目標指標の達成状況」の3つの視点から判断した総合評価により、A～Dの4段階（※下記評価基準）での評価としました。

【評価基準】

- A 当初目標を大きく上回って達成できた
- B 概ね当初目標どおり達成できた《当初の予定どおりであればB評価》
- C 当初目標を僅かながら達成できなかった
- D 当初目標を達成できなかった

(3) 点検・評価の結果

今回の点検・評価の対象とした事業・施策数37のうち、
評価A=3、評価B=29、評価C=4、評価D=1 となりました。
関係各課が点検・評価した結果は以下のとおりです。

【平成21年度事業 点検・評価の内訳】

ア 安全で快適な教育環境の整備・充実		評価
事業・施策名称	担当課	
(ア) 小中学校施設耐震化事業	教育総務課	C
(イ) 小中学校管理事業（補助事業含む）	教育総務課	B
(ウ) 小中学校教育振興事業（補助事業含む）	教育総務課	A
イ 個性や特性を重視した質の高い学校教育の推進		評価
事業・施策名称	担当課	
(ア) 光っ子教育サポート事業	学校教育課	B
(イ) やまぐち学校教育支援員活用促進事業	学校教育課	B
(ウ) 学力向上等支援員配置事業	学校教育課	B
(エ) 心療カウンセラー派遣事業	学校教育課	B
(オ) 中2中3少人数学級化支援事業	学校教育課	B
(カ) 少人数による授業などきめ細かな指導の実施	学校教育課	B
(キ) 子ども安全ボランティア事業	学校教育課	B
(ク) 光市グローバル化プラン	学校教育課	B
(ケ) コミュニティースクール事業	学校教育課	B
(コ) 光市海外派遣事業	教育総務課	D
ウ 豊かな人間関係の基盤をつくる人権教育の推進		評価
事業・施策名称	担当課	
(ア) 光市人権教育指導者研究会	人権教育課	B
(イ) 光市人権を考えるつどいの開催	人権教育課	B
エ 豊かな人生を創出する共創・協働の生涯学習の推進		評価
事業・施策名称	担当課	
(ア) 生涯学習推進事業	文化・生涯学習課	C
(イ) 放課後子ども教室推進事業	文化・生涯学習課	C
(ウ) 光市情報学習推進協議会協働事業	文化・生涯学習課	C
(エ) 公民館の地区自主運営への移行	地域づくり推進課	B

オ 芸術・文化活動の振興と地域文化の保存・継承		評価
事業・施策名称	担当課	
(ア) 芸術・文化活動振興事業	文化・生涯学習課	B
(イ) 伊藤公没後100年記念事業	文化・生涯学習課	B
(ウ) 史跡石城山神籠石保存管理計画策定事業	文化・生涯学習課	B
カ 次代を担う青少年の健全育成		評価
事業・施策名称	担当課	
(ア) 青少年ボランティア育成事業	文化・生涯学習課	A
(イ) 留守家庭児童教室（サンホーム）増設事業	文化・生涯学習課	B
(ウ) 光市成人のつどいの開催	文化・生涯学習課	B
キ 生涯学習、情報発信の拠点としての図書館の充実		評価
事業・施策名称	担当課	
(ア) 資料の充実と図書館の整備	図書館	B
(イ) 子ども読書活動の推進事業	図書館	B
ク 伸びゆく力を育てるスポーツ・レクリエーションの振興		評価
事業・施策名称	担当課	
(ア) 市主催体育行事の実施	体育課	B
(イ) 関係団体との連絡調整とスポーツ活動の支援	体育課	B
(ウ) 体育施設の管理及び開放事業の促進	体育課	B
ケ 自然の恵みに感謝する心を育む学校給食の充実		評価
事業・施策名称	担当課	
(ア) 地産地消の推進	給食センター	B
(イ) 施設・整備の充実	給食センター	A
(ウ) 光市学校給食会補助	給食センター	B
(エ) 光市学校給食施設の整備	給食センター	B
コ 教育開発研究所における調査研究の充実・深化		評価
事業・施策名称	担当課	
(ア) 光市の教育課題についての調査研究事業	教育開発研究所	B
(イ) 第3回教育フォーラムin光	教育開発研究所	B
(ウ) 教職員の職場体験研修派遣事業	教育開発研究所	B

事務事業名		小中学校施設耐震化事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		ア 安全で快適な教育環境の整備・充実			教育総務課
光市行動計画：基本目標		Ⅱ 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生き育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う			
(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価 Ⓐ・B・C・D	
当初予算額	0	197,600	379,600		
最終予算額 (補正等含む)	69,636	254,900	-		
決算額	69,636	250,012	-		
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		平成21年度は、補正により最終予算額が当初の予算額を上回ったが、概ね予定どおり予算を執行した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 耐震化が必要な市内小中学校の校舎及び体育館(12校32棟)			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 児童・生徒が安全で快適な教育環境のもとで学べるよう、耐震補強工事の実施により教育環境の充実を図り、平成26年度の耐震化率を100%とする			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 市内小中学校校舎及び体育館について、地震による倒壊の可能性の高いIS値0.3未満の建物を、IS値の低い建物から順に、耐震補強工事を実施する			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		光市公立学校施設耐震化推進計画に基づき、体育館4棟で耐震補強工事に着手し、児童生徒の学習の場であるとともに、災害時における地域住民の避難場所でもある体育館の耐震化工事を実施した			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	学校施設耐震化率 37.3% (武道場含)	学校施設耐震化率 49% (武道場含)	学校施設耐震化率 56.9% (武道場含)	
	実績値	学校施設耐震化率 41.2% (武道場含)	学校施設耐震化率 43.1% (武道場含)	-	
	達成率(%)	110%	88%	-	
目標指標に対する達成率の説明		光市公立学校施設耐震化推進計画に定める市内学校施設の耐震化計画に対する年度ごとの実施率に基づき算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		当初の予定どおり体育館4棟について耐震補強工事を実施し、うち1棟について年度内に完工した			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		上記①～③のとおり、光市公立学校施設耐震化推進計画に基づき事業を実施したが、予定した4棟のうち3棟が年度内に完工しなかったためC評価とした			
A・B・C・D					
※ 課題と今後の取組		今後も光市公立学校施設耐震化推進計画に基づき、可能な限り早急に、各学校施設の耐震化工事を実施する			

事務事業名		小中学校管理事業(補助事業含む)			部課名
光市教育委員会：重点施策		ア 安全で快適な教育環境の整備・充実			教育総務課
光市行動計画：基本目標		Ⅱ 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生き育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う			
(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額	8,500	6,000	6,000		
最終予算額 (補正等含む)	11,100	36,995	-		
決算額	11,094	36,991	-		
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		平成21年度は、当初予算額が前年度に比べ減額となっていたものの、政府の実施した経済対策に伴う補助事業を活用して、大幅な学校管理備品の購入・更新を実施した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 学校施設における学校管理備品			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 児童・生徒の学習の場である学校施設について、学校管理備品の整備を進めることにより、児童・生徒の学習環境の充実を図る			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 学校管理備品について、経年に伴う老朽化・陳腐化したものについて順に更新・更改を実施する			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		平成21年度は、学校情報通信技術環境整備事業(学校ICT環境整備事業)と地域活性化・経済危機対策臨時交付金を活用し、旧光市小中学校の校務用パソコンの更新と市内全小中学校に図書館書架の整備を実施した			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	-	-	-	
	実績値	-	-	-	
達成率(%)		-	-	-	
目標指標に対する達成率の説明		-			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		事業全体に対する目標指数の数値化が困難であるため、達成率を算出していない			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		平成21年度は、国庫補助事業を活用して、機能の陳腐化が著しい旧光市小中学校の校務用パソコン(平成15年4月導入)の更新と、市内全小中学校に図書館書架の整備を実施ができたためB評価とした			
A・B・C・D					
※ 課題と今後の取組		学校管理備品について、新たに必要となったもの、経年に伴う老朽化・陳腐化したものについてよく検討し、真に必要なものから、順に更新・更改を実施していく			

事務事業名		小中学校教育振興事業(補助事業含む)			部課名
光市教育委員会：重点施策		ア 安全で快適な教育環境の整備・充実			教育総務課
光市行動計画：基本目標		Ⅱ 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生き育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う			
(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額	20,895	32,480	24,850		
最終予算額 (補正等含む)	20,895	63,322	-		
決算額	20,039	62,249	-		
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		平成21年度は当初予算が前年度に比べ増額となったのに加え、政府の実施した経済対策に伴う補助事業を活用し、大幅な教育振興備品の整備を実施した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 教材等の教育振興備品			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 教育振興備品の整備を行うことで、児童・生徒の学習環境の充実に努める			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 教育振興備品について、教育振興のため新たに必要となったもの、経年に伴う老朽化・陳腐化したものについて、順次、更新・更改を実施する			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		平成21年度は、地域活性化・経済危機対策臨時交付金を活用した学校図書的大幅な蔵書増に努め、また新学習指導要領に対応した教材整備のため、理科教育設備整備事業により、理科教育教材の整備を実施した			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	小中学校図書標準 充足率 80%	小中学校図書標準 充足率 81%	小中学校図書標準 充足率 88%	
	実績値	小中学校図書標準 充足率 80.9%	小中学校図書標準 充足率 87.7%	-	
	達成率(%)	101%	108%	-	
目標指標に対する達成率の説明		市内小中学校における学校図書標準(文部科学省の定めた、公立学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準数)の充足率により算出			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		平成21年度の主な事業として、交付金を活用することで、学校図書の蔵書数を増加させることで、学校図書標準の数値を大幅に上昇させることができた			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		学校図書館の整備充実として、交付金を活用した大幅な蔵書増を実現し、また、理科教育教材の定期的購入に加えて、理科教育設備整備事業により、理科教育教材の整備を行うことができたため、A評価とした			
Ⓐ・B・C・D					
※ 課題と今後の取組		教育振興備品について、教育振興に新たに必要となったもの、経年に伴う老朽化・陳腐化したものについてよく検討し、真に必要なものから、順に更新・更改を実施する			

事務事業名		光っ子サポート事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		イ 個性や特性を重視した質の高い学校教育の推進			
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生き育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価	
当初予算額 (単位:千円)	9,790	14,148	22,275		
最終予算額 (補正等含む)	9,790	15,270	-		
決算額 (単位:千円)	9,646	15,270	-	A・ ⓑ ・C・D	
① 予算・決算額から見た平成21年度の実施状況		平成21年度は、補正により最終予算額が当初の予定額を上回ったものの、概ね予定通り予算を執行した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 特別な配慮を要する児童生徒の在籍する学校で、通常の学級に該当児童がより多く在籍している小学校に配置する条件の県補助事業「やまぐち学校教育支援員」の配置が叶わなかった小・中学校 ・通常の学級又は特別支援学級			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) ・通常の学級:学級集団の中で、周りに合わせて行動するルールやマナーを守るなどの生活習慣・学習習慣を向上させる ・特別支援学級:障害の状況に応じて知的発達、言語の獲得、生活自立等の促進を図る ・通常の学級の児童生徒全員が学習に集中できる			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 県補助事業「やまぐち学校教育支援員」の配置が叶わなかった小・中学校、又は「やまぐち学校教育支援員」の配置だけでは対応が困難な学校に対して、市単独で支援員「光っ子サポーター」を配置し、児童生徒の障害の状況に応じて、学級担任と協力して学習・生活面への指導・支援を行う			
② 事業の目標に対する平成21年度の実施状況		8名の支援員を上島田小学校、浅江小学校、光井小学校、周防小学校、三輪小学校、東荷小学校、室積中学校、光井中学校の8校に配置し、知的障害のある児童生徒への学習・生活面の指導・支援、自閉症・情緒障害のある児童生徒への自立・社会参加を促すための指導・支援、肢体不自由の児童生徒への介助等を行った			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	小学校5校に5名を配置	小学校5校に5名 中学校2校に2名を配置	小学校6校7名 中学校4校4名を配置	
	実績値	小学校5校に5名を配置	小学校6校に6名 中学校2校に2名を配置	-	
	達成率(%)	100%	114%	-	
目標指標に対する達成率の説明		当初の配置予定人数に対する実配置人数により達成率を算出した			
③ 平成21年度における目標指標の達成状況		当初の配置予定数7校7名に対して、年度途中の転入により、自閉症・情緒障害学級の児童数が増え、担任1名では対応が困難になったため、当該学校に1名の追加配置をし、全体で8校8名を配置した、内、新たに本年度から中学校2校へ2名を配置した			
上記①～③を踏まえた平成21年度の総合評価と理由		市全体必要数12校14名に対して、県事業で6名、市単独で8名を配置し、特別な配慮を要する児童生徒の発達、自立や集団生活への適応を促進するとともに、周りの児童生徒の人間関係力を助長することができたことから、B評価とした			
A・ ⓑ ・C・D					
※ 課題と今後の取組		発達障害などにより個別の教育的支援を必要とする児童生徒は全児童生徒数の5%近くを占めており、これまで以上に支援員の必要性が求められている、今後、学校の実情をもとに事業を実施していきたい			

事務事業名		やまぐち学校教育支援員活用促進事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		Ⅰ 個性や特性を重視した質の高い学校教育の推進			学校教育課
光市行動計画：基本目標		Ⅱ 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生き育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価	
当初予算額 (単位:千円)	7,953	6,817	6,893		
最終予算額 (補正等含む)	6,607	6,817	-		
決算額 (単位:千円)	6,567	6,630	-	A・ ⓑ ・C・D	
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		平成21年度は概ね予定通り予算執行できた			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 特別な配慮が必要な児童の在籍する学校で、通常の学級により多くの該当児童が在籍する小学校			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) やまぐち学校教育支援員活用促進事業実施計画に基づき、補助教員を配置することで、学級集団の中で、周りに合わせて行動したりルールやマナーを守るなどの生活習慣・学習習慣を向上を図り、通常の学級の児童生徒全員が学習に集中できる環境を整える			
	事業の実施方法	補助教員を小学校第1～2学年、3～4学年及び5～6学年の学級へ配置し、特別な配慮を要する児童の学習面、生活面の指導、支援を中心としながら、学級運営の補助を行う			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		6名の補助教員を室積小学校、島田小学校、浅江小学校、光井小学校、三井小学校、岩田小学校の6小学校の特定の学級に配置し、授業にティーム・ティーチングや個別指導を取り入れ、特別な配慮を要する児童に学習指導や生活指導の補助、個別指導を行った			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	小学校5校に6名を配置	小学校6校に6名を配置	小学校6校6名を配置	
	実績値	小学校5校に6名を配置	小学校6校に6名を配置	-	
	達成率(%)	100%	100%	-	
目標指標に対する達成率の説明		当初の配置予定数に対する実際の配置数により達成率を算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		やまぐち学校教育支援員活用促進事業実施計画に基づき、当初の予定どおり6名の補助教員を小学校6校に配置した			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		当初の予定どおり6名の補助教員を配置し、特別な配慮を要する児童の学校生活への適応、学習指導の充実を促進するとともに、同じ学級に在籍する児童全員が学習に集中するとともに、円滑な人間関係を形成することができたため、B評価とした			
A・ ⓑ ・C・D					
※ 課題と今後の取組		今後もやまぐち学校教育支援員活用促進事業(特別支援教育)実施要領をもとに、「光っ子サポート事業」との併用を図りながら事業を着実に実施していく			

事務事業名		学力向上等支援員配置事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		イ 個性や特性を重視した質の高い学校教育の推進			
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生み育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価	
当初予算額 (単位:千円)	—	—	—		
最終予算額 (補正等含む)	—	—	—		
決算額 (単位:千円)	—	—	—	A ○ B ・ C ・ D	
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		県事業であり、市予算は伴わない			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 市教委の配置希望をもとに、県教委が、配置希望校の状況や県全体のバランス等を考慮し、配置を決定した小・中学校			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 学力向上等支援員を配置することで、学力向上に積極的に取り組むとともに、新学習指導要領の先行実施に伴う授業時数の増加に対応したきめ細かな指導の充実を図る			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) ・学習指導の支援として、少人数指導やチーム・ティーチングによる個に応じた指導の充実、課題を有する教科の授業の充実、小1プロブレムに対応するためのチーム・ティーチングによる授業等を実施する ・特別な支援が必要な児童生徒や、教室で授業が受けられない児童生徒への個別対応、学習指導、授業代替などを実施する			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		各校では、それぞれの実情に応じて必要性の高い学年に配置し、チーム・ティーチングによる授業を中心に以下のような取組を行った ・学力差の大きい教科における、個別指導を充実させた ・集団生活や、一斉指導での学習への適応が困難な児童に対して個別指導を行い、心の安定を図り学習への集中力を高めた			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	2名の支援員を配置	7名の支援員を配置	小学校2校2名の配置を希望	
	実績値	2名の支援員を 小学校2校に配置	7名の支援員を小学校 6校、中学校1校に配置	—	
	達成率(%)	100%	100%	—	
目標指標に対する達成率の説明		配置希望人数に対する配置人数の割合を達成率として算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		<ul style="list-style-type: none"> ・理解が遅い児童等を中心に、個別指導がよくできた ・基礎基本の学習が徹底され、個に応じたきめ細かな指導がなされた ・児童一人一人が落ち着いて学習する環境が整った 			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		上記②、③のとおり、当初の目標を達成しており、また、配置校から多くの成果が報告されており、一定の効果をあげているため、B評価とした			
A ・ ○ B ・ C ・ D					
※ 課題と今後の取組		県教委の事業内容が毎年変更されるので、次年度の計画を策定する時期には、県教委と十分連携を図りながら、他の市単独事業も含めた総合的な学校支援体制づくりを検討していく			

事務事業名		心療カウンセラー派遣事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		イ 個性や特性を重視した質の高い学校教育の推進			学校教育課
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生み育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う(1 義務教育の推進)			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	240	240	240		
最終予算額 (補正等含む)	240	240	-		
決算額 (単位:千円)	240	240	-		A・ B ・C・D
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		平成21年度は、予定通り予算を執行した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 問題行動のある児童生徒や不登校もしくは不登校傾向にある児童生徒ならびにその保護者、教職員			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) スクールカウンセラーの配置のない市内小学校等に対して、年間延べ12回の派遣を行い、学校内の研修に資する指導助言活動や教職員、保護者の相談活動を行い、児童生徒の問題解決ならびに健全育成を目指す			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 「教育相談の充実」や「特別支援対象児童生徒のケース会議」に資する指導助言を行ったり、特別に配慮を必要とする児童生徒の保護者に対する相談活動やその指導にあたる教職員への助言を行うことで目標を実現していく			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		各校での職員研修やケース検討会議を重ねることで、複数の事例の解決につながり、児童の笑顔を取り戻すことができました。さらに未解決事例に対しても解決への糸口を見いだすことができ、学校・関係機関の密な連携のもと、継続的な取組を実施した			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	年間のべ12回の派遣	年間のべ12回の派遣	年間のべ12回の派遣	
	実績値	年間のべ12回の派遣	年間のべ12回の派遣	-	
	達成率(%)	100%	100%	-	
目標指標に対する達成率の説明		派遣予定数に対して、派遣実数を比較して算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		平成21年度は周防小9回、岩田小1回、島田小1回 浅江小1回の派遣を行い、各校で抱えていたトラブル解決の方向性を見出すことができた			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		教職員のカウンセリング技術、児童生徒理解の方法などに関する能力の向上が図られ、児童生徒に対する指導や支援の質が高まってきた。また、配慮を要する児童生徒の保護者への適時性のあるカウンセリングを行うことで、学校と家庭が連携し児童生徒をサポートする体制がつけられつつあるため、B評価とした			
A・ B ・C・D					
※ 課題と今後の取組		対象事例の解決策を見いだすことはできたが、その対応を生かした取組にまで高めることができていない、よって、今後は今まで蓄積された各校のノウハウを周囲へ広げていくような取組が必要である			

事務事業名		中2中3少人数学級化支援事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		イ 個性や特性を重視した質の高い学校教育の推進			
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生み育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う(1 義務教育の推進)			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	21,469	25,763	17,073		
最終予算額 (補正等含む)	12,683	15,363	-		
決算額 (単位:千円)	12,357	15,325	-		A・ B ・C・D
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		当初予算では、12名の配置を予定していたが、学級増により8名の配置となったため減額補正を行った			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 市内の中学2年生・3年生において、35人学級化が図られていない学校 (本年指定は、室積中・光井中・大和中の3校)			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 生徒の学校生活に対する意欲の向上を図るため、中学校2・3年生の40人学級を35人学級化し、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導体制を構築する			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 35人学級化を図るために、市内中学校の3校に対して数学・理科・外国語の加配教員を配置し、少人数指導によるきめ細かな指導を行う。配置校の3校は、各校の実情に応じた指導計画を作成し、月ごとに実施の状況について確認し、改善を図りながら目標の実現に近づけていく			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		室積中、光井中、大和中の3校に対して非常勤講師を配置し35人学級化を実現した、学力向上を中心として、「自己有用感の高揚」「数学科の指導改善」「英語科の指導改善」「美しい心の育成」を柱とした実践がなされ、生徒一人ひとりに対するきめ細かな指導・支援のもと、子どもたちの主体性を高めることができた			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	配置予定数 6名	配置予定数 12名	配置予定数 9名	
	実績値	配置数 6名	配置数 8名	-	
	達成率(%)	100%	67%	-	
目標指標に対する達成率の説明		配置予定数に対して、配置実数を比較して算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		達成率が大きく下がったのは、当初の予定から、学級数増により配置人数が減少したためであり、実際に必要な配置人数の達成率は100パーセントである			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		上記①～③のとおり、概ね予定通り、事業を実施することができたため、B評価とした			
A・ B ・C・D					
※ 課題と今後の取組		各校で蓄積された、少人数教育に関するノウハウを他校に広げていくことで、指導支援の質の向上を高めていくことが課題である			

事務事業名		少人数による授業などきめ細かな指導の実施			部課名
光市教育委員会：重点施策		イ 個性や特性を重視した質の高い学校教育の推進			学校教育課
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生み育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	—	—	—		
最終予算額 (補正等含む)	—	—	—		
決算額 (単位:千円)	—	—	—		A・ B ・C・D
① 予算・決算額から見た平成21年度の実施状況		国庫補助を受けた県事業であり、市予算は伴わない			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 市教委の配置希望をもとに、県教委が、配置希望校の状況や県全体のバランス等を考慮し、配置を決定した小・中学校			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 学習指導要領の趣旨を踏まえ、個に応じた多様な教育を展開し、少人数による授業などきめ細かな指導を取り入れて授業改善を図り、児童生徒の学力向上を積極的に進め、もって学校教育の質的な転換・向上に資する			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 加配教員を配置することにより、1学級あたりの児童生徒数を減らす少人数学級化を行ったり、学級を分割して、少人数の学習集団を弾力的に編成したりすることにより、理解の程度に応じた学習を中心とし、興味・関心別学習、課題別学習などの指導を行ったり、一斉授業において、複数の教員の協力による個別指導やグループ指導を導入したりするなど、個に応じたきめ細かな指導を進める			
② 事業の目標に対する平成21年度の実施状況		加配教員を、少人数学級化に充てた学校は、小学校4校、中学校4校、少人数指導に活用した学校は、小学校3校で、予定通り実施した			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	小・中学校に計14名の加配教員を配置	小中学校に計11名の加配教員を配置		
	実績値	小学校に8名、中学校に6名配置	小学校5校に7名、中学校4校に4名配置	—	
	達成率(%)	100%	100%	—	
目標指標に対する達成率の説明		当初予定の加配教員数に対する、実際の加配教員数の割合を達成率とした			
③ 平成21年度における目標指標の達成状況		各校では、県の基準に基づき該当学年において、少人数学級化又は少人数指導を導入し、個に応じたきめ細かな指導を計画的・組織的に実施した			
上記①～③を踏まえた平成21年度の総合評価と理由		上記②、③のとおり、当初の目標を達成しており、また、配置校から多くの成果が報告されており、一定の効果をあげているため、B評価とした			
A・ B ・C・D					
※ 課題と今後の取組		配置できなかった学校があり、その点では、今後も、県教委と十分連携し、協議を重ねながら、学力の向上や生徒指導の充実に向け、より効果の上がる少人数指導体制の構築に努めていく			

事務事業名		子ども安全ボランティア事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		イ 個性や特性を重視した質の高い学校教育の推進			学校教育課
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生み育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う(1 義務教育の推進)			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	-	402	268		
最終予算額 (補正等含む)	-	402	-		
決算額 (単位:千円)	-	398	-		A・ B ・C・D
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		平成21年度は、概ね予定通り予算を執行した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 下校時における市内小中学校の児童生徒			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 子ども安全ボランティアの拡充と各学校のスクールガード組織の活動の一層の充実を図ることによって、子どもたちの安心安全な登下校の更なる確保と健全な育成(非行未然防止のため)に努める			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) ボランティアによる「下校パトロール」「散歩パトロール」「お帰りパトロール」を継続展開し、子どもたちの安全確保を図る。また、スクールガード(子ども見守り活動)に関する研修及び地域ごとの情報交換を深めることで、学校・地域・地域間での協同体制を強化し目標実現を目指す			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		市内幼稚園、小学校、中学校に対してスクールガードリーダーが予定通り複数回訪問し、的確な指示を行うことで、安全な登下校の環境づくりを進めることができた			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	-	派遣予定時数 201時間	派遣予定時数 134時間	
	実績値	-	派遣時数 199時間	-	
	達成率(%)	-	99%	-	
目標指標に対する達成率の説明		派遣予定時数に対して、派遣実数を比較して算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		平成21年度は、おおむね予定通り達成することができた			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		上記①～③のとおり、概ね事業を実施することができたため、B評価とした			
A・ B ・C・D					
※ 課題と今後の取組		現行、1人のスクールガードリーダーで各校訪問を行っており新たなスクールガードリーダーの養成が必要である、特に大和地区におけるリーダー養成が急がれる			

事務事業名		光市グローバル化プラン			部課名
光市教育委員会：重点施策		イ 個性や特性を重視した質の高い学校教育の推進			学校教育課
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生み育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	-	1,680	3,071		
最終予算額 (補正等含む)	-	1,680	-		
決算額 (単位:千円)	-	1,648	-		A・B C・D
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		平成21年度は、概ね予定通り予算を執行した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 市内の小学校5・6年生全学級(平成23年度からの新学習指導要領実施に伴い、小学校5・6年生において外国語活動が導入されることに基づく)			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 新学習指導要領の移行期間中である21年度より市内5・6年生に外国語活動を年間35時間先行実施し、外国語と日本語の2カ国語を用いることのできる「外国語活動指導補助員」を配置して、ネイティブな発音のできる補助員と学習することで、外国語に慣れ親しみ、体験をとおして、積極的にコミュニケーションをしようとする態度を養う			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 市内小学校5・6年生の外国語活動全35時間の約半数にあたる17時間の授業に外国語活動補助員を派遣し、ネイティブな発音による外国語と日本語の2カ国語を用いて指導の補助をすることで、外国語に初めてふれる児童が抵抗なく学習活動に取り組めるようにする			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		2名の指導補助員を市内小学校5・6年生の全学級に年間17時間派遣し、外国語活動の授業での補助を行った、授業においては、担任の指導計画に基づき、英語の発音を聞かせる、英語で児童とコミュニケーションをとる、ゲームなどの学習活動を提供する、などにより、児童が楽しみながら外国語に親しんでいく支援を行った			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	-	2名の指導補助員を派遣	4名の指導補助員を派遣	
	実績値	-	2名の指導補助員を派遣	-	
達成率(%)		-	100%	-	
目標指標に対する達成率の説明		当初の派遣予定者数に対する実際の派遣者数により達成率を算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		当初の予定通り2名の指導補助員と、JETプログラムによるALTとの併用により、市内小学校5・6年生全学級において外国語活動の授業を先行実施することができた			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		平成23年度からの新学習指導要領の移行期間に市内5・6年生に外国語活動を年間35時間先行実施し、本事業によりその約半数の年間17時間、ネイティブな発音のできる指導補助員を派遣し、円滑な移行措置をとるとともに、児童の外国語に親しむ態度を助長することができたため、B評価とした			
A・(B)・C・D					
※ 課題と今後の取組		平成23年度からの新学習指導要領完全実施に向け、全35時間の指導補助員の導入、さらに担任・担当教員との打ち合わせ時間の確保など、派遣雇用条件を整えていく			

事務事業名		コミュニティスクール推進事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		イ 個性や特性を重視した質の高い学校教育の推進			
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生み育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	-	-	600		
最終予算額 (補正等含む)	-	-	-		
決算額 (単位:千円)	-	-	-		
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		平成21年度は、文部科学省による県教育委員会への委嘱事業として実施されたので、市予算の計上・執行はない			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 浅江中学校を、平成21、22年度の2年間、調査研究校として指定			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 保護者や地域住民が、学校運営協議会を通じて、一定の権限を持ち、教育委員会、校長と責任を分かち合いながら、学校運営に携わっていくことで、保護者や地域の多様な要請に応え、地域に開かれ、地域に支えられた学校づくりを行う			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 本研究事業を通して、学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)の趣旨、内容等について保護者や地域の方への広報、周知を図るとともに、浅江中学校の実態や地域の要望を踏まえた、学校運営協議会の組織や運営体制づくりについて研究・開発に取り組んでおり、平成23年度に正式導入することを目指す			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		<ul style="list-style-type: none"> ・先進校視察を3回実施 延べ8名の教職員が、計4校1地教委を訪問し、貴重な情報や資料を得た ・先進校視察や制度説明会を実施し、教職員、保護者、地域住民の理解と周知を図った ・研究組織として、推進委員会を7回開催し、保護者、地域の方の意見を参考にしながら、学校運営協議会(あさなえネット)の組織・運営体制と活動計画の原案を作成した 			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	-	・組織・運営体制づくり ・活動計画の原案作成	・学校運営協議会制度に基づく実践 ・島田中における研究	
	実績値	-	・組織・運営体制づくり ・活動計画の原案作成	-	
	達成率(%)	-	100%	-	
目標指標に対する達成率の説明		事業内容が、新しい制度を導入するための調査研究活動であることから、数値評価できる指標が設定できないため、組織・運営体制づくり、研究計画の進捗状況及び、報告書から読み取れる成果に基づき評価した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		学校運営協議会の機能や組織を検討するために学校内外の構成員23名の「推進委員会」及び推進委員会に諮る原案を作成する「校内実行委員会」の組織作りを行い、活動計画の原案を作成した			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		保護者・地域の方の理解・協力が得られ、学校運営協議会(11名)、企画推進委員会(11名)、プロジェクト部会3部会の組織・運営体制の原案を作成し、2年次の取組である学校運営協議会制度に基づく学校運営の実践研究が円滑に始められる準備ができたことから、研究計画1年次の目標を達成できたため、B評価とした			
A・B・C・D					
※ 課題と今後の取組		複数の小学校、自治会を持つ中学校における学校運営協議会制度の導入に向けた研究が必要 そこで、平成22年度から、島田中学校においても調査研究に取り組む			

事務事業名		光市海外派遣事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		Ⅰ 個性や特性を重視した質の高い学校教育の推進			教育総務課
光市行動計画：基本目標		Ⅱ 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		4 人の繋がりを広げるために			
光市行動計画：個別目標		1 国際交流の推進			
(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価 A・B・C・D
当初予算額	5,770	5,770	5,770		
最終予算額 (補正等含む)	5,770	0	-		
決算額	5,404	0	-		
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		派遣国における新型インフルエンザの流行に伴い派遣を中止したため予算執行なし			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 海外派遣を希望する市内在住の中・高校生			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 英語によるコミュニケーション能力を向上させるとともに、外国の社会や文化に対する認識を深め、外国に関する幅広い知識を持った人材の育成を図る			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 夏休みの約3週間の間に英語圏の国へ派遣し、外国でのセミナー及びホームステイを通して、生活・習慣・文化・語学等に対しての幅広い知識を身に付ける			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		派遣国における新型インフルエンザの流行に伴い、平成21年度の派遣事業を中止した			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	海外派遣者数 中学生12名、高校生4名	海外派遣者数 中学生12名、高校生4名	海外派遣者数 中学生12名、高校生4名	
	実績値	海外派遣者数 中学生11名、高校生3名	派遣中止	-	
	達成率(%)	88%	0%	-	
目標指標に対する達成率の説明		当初参加予定者数に対するに実際の参加者数により、達成率を算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		平成21年度の派遣事業を中止したため、達成率は0%			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		派遣国における新型インフルエンザの流行に伴い、平成21年度の派遣事業を中止し、派遣を実施できなかったためD評価とした			
A・B・C・D					
※ 課題と今後の取組		派遣人員を増員し、事業拡大を図るため、派遣先の変更(現行派遣国、中学生:カナダ、高校生:オーストラリア)も含めた派遣国についての調査・研究を行う			

事務事業名		光市人権教育指導者研究会			部課名
光市教育委員会：重点施策		ウ 豊かな人間関係の基盤をつくる人権教育の推進			人権教育課
光市行動計画：基本目標		I 人と地域で支えあうまち			
光市行動計画：重点目標		3 認めあう共生の社会を築くために			
光市行動計画：個別目標		1 基本的人権の尊重			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価 A・ B ・C・D	
当初予算額 (単位:千円)	585	585	585		
最終予算額 (補正等含む)	585	585	-		
決算額 (単位:千円)	585	585	-		
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		平成21年度は、当初の予定通り予算を執行した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 学校・PTA・企業・社会教育団体等			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 人権意識の高揚を図るためには、学校・PTA・企業・社会教育団体等、各種団体において指導者の養成が重要であるため、各種団体等から会員を募って研究会を組織し、それに必要な資質を身につけた指導者を多く輩出できるようにする			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 各種団体から会員を募り、地域の実状に合ったものや喫緊の人権課題をテーマとした、研修会を定期的実施し、指導者養成に必要な研修を推進する			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		人権教育を推進する指導者を養成することをめざして、年間4回開催する定例会の研修内容の設定や講師の選定を工夫し、会員の人権意識を高揚させるとともに、指導者としての資質を高められるように努めた			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	261人 (平成19年度会員数)	267人 (平成20年度会員数)	275人 (平成21年度会員数)	
	実績値	267人	275人	-	
	達成率(%)	102%	103%	-	
目標指標に対する達成率の説明		指導者研究会の前年度会員数を基準に今年度会員数を比較し、達成率を算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		平成21年度は、会員数275人で指導者研究会を組織し、前年度比で3%増加した			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		上記①～③のとおり、概ね予定どおり光市人権教育指導者研究会を実施することができたため、B評価とした			
A・ B ・C・D					
※ 課題と今後の取組		各種団体や市民全般を対象に、幅広く会員を募り、指導者研究会員の増加に努める、また、中学校の生徒や保護者、地域住民にも学習の機会を広げるような研修体制の設定をすることにより、多くの市民に指導者研究会の周知を図る			

事務事業名		光市人権を考えるつどいの開催			部課名
光市教育委員会：重点施策		ウ 豊かな人間関係の基盤をつくる人権教育の推進			人権教育課
光市行動計画：基本目標		I 人と地域で支えあうまち			
光市行動計画：重点目標		3 認めあう共生の社会を築くために			
光市行動計画：個別目標		1 基本的人権の尊重			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価	
当初予算額 (単位:千円)	250	293	0		
最終予算額 (補正等含む)	250	293	-		
決算額 (単位:千円)	250	273	-	A・ B ・C・D	
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		平成21年度は、当初の予定通り予算を執行した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 光市内の幼・保・小・中・高等学校教職員、PTA、社会教育関係団体や事業所等の人権教育指導者研究会員、市職員、市民			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 人権意識を高めることの大切さをテーマにした講演を通して、市民一人ひとりが、身の周りにある人権問題に対する人権意識を高めるため、有効的な学習機会を提供する			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 人間の自由と平等にかかわるさまざまな人権課題の解決に向けた人権教育講演会を実施			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		8月7日に開催された「光市人権を考えるつどい」では、JAN日本アジアネットワーク代表池間哲郎氏を講師に迎え、「懸命に生きる人々～日本人こそ学んで欲しい～」と題しての講演会を実施			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	市民ホール大ホール 収容定員 886人	市民ホール大ホール 収容定員 886人	市民ホール大ホール 収容定員 886人	
	実績値	参加者 744人	参加者 743人	-	
	達成率(%)	84%	84%	-	
目標指標に対する達成率の説明		市民ホール大ホールの収容定員(固定席)886人を目標値として設定し、参加者総数に基づき達成率を算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		市内教職員、PTA、指導者研究会員を始め、一般の市民の他、市外や県外からの参加もあり、収容定員の84%の出席者があった、講演内容については、参加者の感想からも高い評価を得ることができた			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		上記の①～③のとおり、概ね予定どおり光市人権を考えるつどいの事業を実施することができたため、B評価とした			
A・ B ・C・D					
※ 課題と今後の取組		平成22年度は、山口県の事業である「人権ふれあいフェスティバル」と兼ねて「光市人権を考えるつどい」を実施し、平成23年度以降、喫緊の課題や市民のニーズを把握し、効果的に市民の人権意識を高めることができる学習の機会としていく			

事務事業名		生涯学習推進事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		エ 豊かな人生を創出する共創・協働の生涯学習の推進			
光市行動計画：基本目標		Ⅱ 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		2 彩り豊かな人づくりのために			
光市行動計画：個別目標		1 生涯学習社会の構築			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	3,050	2,774	2,924		
最終予算額 (補正等含む)	2,750	2,474	-		
決算額 (単位:千円)	2,293	2,202	-		
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		講師謝金等の支出が抑えられたため、当初予算に比べ決算額が大幅に下回ったが、事業としては予定どおり実施することができた			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 市民の生涯各期のライフスタイルに応じて実施			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 市民一人ひとりが「いつでも、どこでも、だれでも」自由に学ぶことができる様々な学習機会を提供するため、生涯学習センターや青少年センター等、社会教育関連施設と連携しながら、市民の学習活動の充実や学習機会の拡充を図る			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 年間を通して生涯各期に応じた、「高年者生きがいセミナー」、「成人大学講座」、「ウイメンズセミナー」、「ヤングセミナー」、「少年少女セミナー」、「子育て講座」を実施し、市民の学習機会を確保する			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		「高年者生きがいセミナー」全8回、「成人大学講座」全8回、「ウイメンズセミナー」全7回、「ヤングセミナー」全7回、「少年少女セミナー」全5回、「子育て講座」全10回を実施し、年間を通して様々な学習機会の提供に努めた			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	登録延べ人数2,983名	登録延べ人数2,773名	登録延べ人数3,262名	
	実績値	年間延べ受講者数 1,924名	年間延べ受講者数 1,675名	-	
	達成率(%)	64.5%	60.4%	-	
目標指標に対する達成率の説明		登録型講座の登録者数を指標とし、予定総受講者数に対する延べ受講者数に基づき達成率を算出			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		受講者数の減少により、目標指標について、昨年度の達成率から改善できなかった			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		生涯各期のライフスタイルに応じた講座を、年間を通して開催し、市民へ学習機会を提供することはできたが、目標指標の達成率が改善できず、低下してしまったため、C評価とした			
A・B・C・D					
※ 課題と今後の取組		今後も市民の生涯学習を支援するため、ニーズに応じた学習機会の提供ができるよう、受講者へのアンケートの実施等により講座の内容について検討していく			

事務事業名		放課後子ども教室推進事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		エ 豊かな人生を創出する共創・協働の生涯学習の推進			文化・生涯学習課
光市行動計画：基本目標		Ⅱ 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生き育てるために			
光市行動計画：個別目標		1 地域で育てる			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価	
当初予算額 (単位:千円)	1,752	1,971	1,964		
最終予算額 (補正等含む)	1,752	1,971	-		
決算額 (単位:千円)	1,487	1,571	-		
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		需用費の支出が少なかったため、当初予算に比べ決算額が下回ったが、事業としては予定どおり実施した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 放課後や週末等の子どもたち			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 小学校の余裕教室や公民館等の社会教育施設を活用し、放課後や週末等に子どもたちの安全・安心な居場所を設け、様々な体験活動や交流活動を実施することで、子どもたちが地域の中で安心して健やかに育まれる環境づくりの推進を図る			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 事業の一部を子どもたちの健全育成に情熱を持つ地域の実行委員会に委託し、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ、文化活動、地域住民の交流等の取組を実施する			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		平成21年度は6小学校区で、放課後子ども教室を実施し、各教室とも様々な体験・交流・学習活動の機会を提供し、子どもたちの安全・安心な居場所づくりに努めた			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	11小学校区のうち6小学校区で教室実施	11小学校区のうち7小学校区で教室実施	11小学校区のうち7小学校区で教室実施	
	実績値	6小学校区で実施	6小学校区で実施	-	
	達成率(%)	100%	85.7%	-	
目標指標に対する達成率の説明		放課後子ども教室の実施予定数に対する実施数に基づき、達成率を算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		平成21年度は6小学校区(室積、光井、島田、上島田、三井、周防)で教室を実施し、子どもたちが地域の中で安心して健やかに育まれる環境づくりができたが、未実施の小学校区で新たに教室を実施することはできなかった			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		上記①～③のとおり、実施した教室については、概ね当初予定どおり、事業の実施をすることができたが、新たな教室を実施することはできなかったため、C評価とした			
A・B・C・D		A・B・C・D			
※ 課題と今後の取組		今後も既存の教室については、引き続き事業を実施し、未実施地区についての実施に努める			

事務事業名		光市情報学習推進協議会協働事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		エ 豊かな人生を創出する共創・協働の生涯学習の推進			文化・生涯学習課
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		2 彩り豊かな人づくりのために			
光市行動計画：個別目標		1 生涯学習社会の構築			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価	
当初予算額 (単位:千円)	555	387	537		
最終予算額 (補正等含む)	555	387	-		
決算額 (単位:千円)	471	311	-	A・ Ⓒ ・C・D	
① 予算・決算額から見た平成21年度の実施状況		概ね予定どおり予算を執行した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 情報化社会に対応する市民の知識・能力の向上を目指して、市民と行政が協働で取り組む光市IT講習会事業			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 市民の情報学習に対する学ぶ意欲の向上を図り、パソコン学習会の開催や、パソコン相談業務を充実させ、市民が市民のために行う学習機会の提供を目指す			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 初心者を対象としたパソコン学習会1日コース、2日コースを概ね月2回ずつ開催し、毎週土曜日に市民パソコン相談を実施する			
② 事業の目標に対する平成21年度の実施状況		パソコン学習会は「はじめてのパソコン」や「はじめてのインターネット」等、初心者を対象とした講座を多く開催し、市民パソコン相談では講座修了者のアフターケアにも努めた			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	年間予定受講者数468名・年間相談300件	年間予定受講者数468名・年間相談300件	年間予定受講者数468名・年間相談300件	
	実績値	受講者数267名・相談930件	受講者数182名・相談392件	-	
	達成率(%)	184%	84.8%	-	
目標指標に対する達成率の説明		パソコン学習会の年間予定受講者数とパソコン相談件数に対する、実受講者数と実相談件数に基づき、達成率を算出した			
③ 平成21年度における目標指標の達成状況		年間受講者数による達成率は、38.9%にとどまったが、年間相談件数に対する達成率は、131%と目標を大きく上回り、目標指数双方の達成率は、84.8%となった			
上記①～③を踏まえた平成21年度の総合評価と理由		年間39回のパソコン学習会と年間50回のパソコン相談を開催し、市民へ学習機会を提供することができたが、パソコン学習会が初心者対象の講座のため、受講者数は減少傾向にあり、目標指数を達成できなかったため、C評価とした			
A・B・ Ⓒ ・D					
※ 課題と今後の取組		今後も市民の情報化に対する理解と技術の向上を図るため、市民のニーズに応じた情報学習の機会を提供し、事業を実施していく			

事務事業名		公民館の地区自主運営への移行			部課名
光市教育委員会：重点施策		エ 豊かな人生を創出する共創・協働の生涯学習の推進			地域づくり 推進課
光市行動計画：基本目標		I 人と地域で支えあうまち			
光市行動計画：重点目標		1 コミュニティで支える地域社会を築くために			
光市行動計画：個別目標		2 連帯意識に支えられた地域コミュニティの育成			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	4,250	164	-		
最終予算額 (補正等含む)	4,558	164	-		
決算額 (単位:千円)	4,558	130	-		A・ B ・C・D
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		大和公民館の自主運営への移行については施設の大幅な改修等を要せず、必要な予算について執行した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 市内全12公民館			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 自主的、主体的な地域活動の拠点となる公民館を、地域による自主運営方式とし、地域力の向上に資する			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 本市公民館は地区館方式により地域住民が主体的に運営・活動に参加してきたが、地域から選出された主事を任命配置し、実質的な地域による自主運営方式とする			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		平成19年10月より逐次公民館の自主運営方式への移行を進め、平成21年10月1日大和公民館に地域選出の主事2名を配置し、自主運営方式に移行したことにより、市内全12公民館が自主運営方式となった			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	光井、周防公民館の自主運営方式への移行	大和公民館の自主運営方式への移行	公民館の自主運営体制の確立	
	実績値	平成20年10月1日より上記2館を、自主運営方式に移行	平成21年10月1日より大和公民館を自主運営方式へ移行	-	
	達成率(%)	100%	100%	-	
目標指標に対する達成率の説明		準備の進んだ公民館より、逐次自主運営方式に移行することとしており、年度毎の計画に対する実施状況により算出			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		平成20年度までに市内11公民館の自主運営化が完了し、平成21年度、残る大和公民館の自主運営化に向けて準備を進め、10月1日より自主運営へ移行した			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		平成21年度中を目標に準備を進め、平成21年10月1日大和公民館の自主運営方式への移行を実施し、今年度の当初目標を達成できたため、B評価とした			
A・ B ・C・D					
※ 課題と今後の取組		公民館の自主運営体制の確立に向けたサポートの充実、地域コミュニティの組織強化を進める			

事務事業名		芸術・文化活動振興事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		オ 芸術・文化活動の振興と地域文化の保存・継承			文化・生涯学習課
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		3 かおり高い文化を育てるために			
光市行動計画：個別目標		1 芸術・文化活動の振興			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	107,730	108,240	108,240		
最終予算額 (補正等含む)	107,730	108,240	-		
決算額 (単位:千円)	107,730	108,240	-		A・B / C・D
① 予算・決算額から見た平成21年度の実施状況		光文化協会及び光の文化を高める会に対する補助金と、光市文化振興会に対する市民ホール・文化センター・ふるさと郷土館の指定管理料を計上しているが、平成21年度は計画どおりに予算を執行した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 市民の自主的な芸術・文化活動			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 多くの市民が文化施設を利用して、幅広い分野の優れた芸術・文化にふれあう機会を享受することができ、また、市民が自主的な芸術・文化活動を活発に行うことができる環境を整え、市民の満足につながる文化・芸術の振興を目指す			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 質の高い芸術・文化に親しむ機会を提供するため、光の文化を高める会の自主事業に対して補助金を交付し、また、芸術・文化団体が多数加盟する光文化協会に対して補助金を交付することにより、市民の自主的な活動を支援する さらに、これらの事業や活動を展開する拠点として、市民ホール・文化センター・ふるさと郷土館の利用促進と良好な維持管理のため、光市文化振興会を指定管理者として指定し、管理運営を行わせる			
② 事業の目標に対する平成21年度の実施状況		光の文化を高める会が、各種コンサートなど充実した9つの自主事業を実施し、多くの市民に芸術・文化に親しむ機会を提供した また、光文化協会において光市文化祭を開催し、市民の活動の発表について支援した さらに、これらの事業や活動を行う場として、文化施設が広く利用されただけでなく、施設の指定管理者である光市文化振興会による各種文化活動も活発に展開され、施設の利用促進に貢献した			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	文化施設の利用者数 89,586人 市民の満足度 18.9%	文化施設の利用者数 90,390人 市民の満足度 19.2%	文化施設の利用者数 91,195人 市民の満足度 19.6%	
	実績値	文化施設の利用者数 83,824人 市民の満足度 21.7%	文化施設の利用者数 84,657人 市民の満足度 26.9%	-	
	達成率(%)	105%	117%	-	
目標指標に対する達成率の説明		文化拠点施設(市民ホール・文化センター・ふるさと郷土館)の年間総利用者数と、市民アンケートによる「文化・芸術活動の振興」に対する満足度に基づき、達成率を算出した			
③ 平成21年度における目標指標の達成状況		文化施設の年間総利用者数による量的目標に対する達成率は94%にとどまったが、市民満足度による質的目標に対する達成率は140%と、目標を大きく上回り、目標指標双方の達成率の平均は117%となった			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由 A・B・C・D		上記①②では概ね計画どおりに実施することができ、上記③においては、市民満足度に基づく達成率が目標を上回る結果となったことにより、全体としては計画をやや上回る成果を達成したため。B評価とした			
※ 課題と今後の取組		今後も、多くの市民が優れた芸術・文化に親しむための機会の提供と、施設利用の促進に努めるとともに、市民の自主的な芸術・文化活動の育成・活性化のための支援を行う			

事務事業名		伊藤博文公没後100年記念事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		オ 芸術・文化活動の振興と地域文化の保存・継承			
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		3 かおり高い文化を育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 地域文化の保存・継承			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価	
当初予算額 (単位:千円)	—	6,017	—		
最終予算額 (補正等含む)	—	4,837	—		
決算額 (単位:千円)	—	4,831	—	A・B・C・D	
① 予算・決算額から見た平成21年度の実施状況		当初予定していた記念切手の作成について計画変更したことに伴い、決算額が当初予算額を下回ったが、それ以外は概ね計画どおりに予算を執行した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 没後100年を記念した伊藤博文公という人物の全国への情報発信			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 伊藤公の没後100年という節目を生かし、同公の残した業績やメッセージ等の継承と紹介に努め、青少年をはじめ多くの人の同公に対する理解や関心を高めると共に、同公の生誕の地であり生涯の礎となった本市について、全国に向け、幅広い視点から情報発信を行う			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 伊藤公の残した業績等を紹介・周知するための講演や企画展など多様な事業を展開し、伊藤公について学ぶ機会を創出することにより、多くの人に、伊藤公についての関心や理解を深めてもらい、また、全事業をまとめた記録集を作成することなどにより、広く情報発信を行う			
② 事業の目標に対する平成21年度の実施状況		「伊藤博文公没後100年記念事業」として、メインイベントである記念大会をはじめ、平成三隅塾、遺墨遺品展、児童生徒書道作品展、伊藤公カップ英語スピーチコンテスト、ヒロブミ イトウ センチュリー フェスタなどを開催し、さらに記録集を発刊したことにより、伊藤公についての理解や関心を高め、広く情報発信することができた			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	—	記念事業の参加・入館・出品数等 12,332	—	
	実績値	—	記念事業の参加・入館・出品数等 14,116	—	
	達成率(%)	—	114%	—	
目標指標に対する達成率の説明		記念事業の参加者数・入館者数・出品数等の延べ数に基づき、達成率を算出した			
③ 平成21年度における目標指標の達成状況		記念事業における参加者数・入館者数・出品数等のうち、主に遺墨遺品展会期中の入館者が予定を上回ったことなどにより、当初予定値を14%上回り達成した			
上記①～③を踏まえた平成21年度の総合評価と理由 A・B・C・D		上記①～③のとおり、記念事業をほぼ計画どおりに実施し、目標を超える多数の参加者等を集めたことにより、伊藤公について広く周知し、情報発信を行うことができ、目標を上回る成果をあげることができたため、B評価とした			
※ 課題と今後の取組		平成22年度からは、伊藤博文公の生涯や偉大な遺徳を後年に継承していくための事業として、継続していく			

事務事業名		史跡石城山神籠石保存管理計画策定事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		オ 芸術・文化活動の振興と地域文化の保存・継承			文化・生涯 学習課
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		3 かおり高い文化を育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 地域文化の保存・継承			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	182	2,551	7,454		
最終予算額 (補正等含む)	72	2,537	-		
決算額 (単位:千円)	48	2,143	-		
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		史跡石城山神籠石保存管理計画策定委員会及び現地調査の回数の削減など、事業の一部計画変更に伴い、決算額が当初予算額をやや下回った			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 国指定史跡である石城山神籠石の保存管理			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 専門的見地と詳細な各種調査に基づいた「史跡石城山神籠石保存管理計画」を策定し、その指針に沿って、石城山神籠石の適切な保存管理と整備・活用を図る			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 各分野の専門家と地元有識者で構成された「史跡石城山神籠石保存管理計画策定委員会」を設置し、各委員の専門的見地から協議・検討を行うとともに、地形図作成や自然環境に関する各種調査を行い、適切な保存管理と将来的な整備・活用の指針を定めた策定報告書を作成する			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		「史跡石城山神籠石保存管理計画策定委員会 第1回会議」を開催し、計画策定に関する協議を行ったほか、各委員による専門的指導のもと、業務委託による石城山神籠石周辺地形図の作成及び22年度に実施する自然環境調査の準備を行った			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	準備委員会の開催	策定委員会の開催 地形図作成	策定委員会の開催 地質及び植生調査 策定書の作成	
	実績値	準備委員会の開催	策定委員会の開催 地形図作成	-	
	達成率(%)	100%	100%	-	
目標指標に対する達成率の説明		年度毎の実施を予定している各事業が、計画どおりに進捗しているかにより、達成率を算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		史跡石城山神籠石保存管理計画策定委員会の開催及び石城山神籠石周辺地形図の作成を実施し、計画どおりに目標を達成した			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由 A・B・C・D		上記①～③のとおり、概ね計画どおりに実施することができ、遅滞なく22年度事業へ進めることができたため、B評価とした			
※ 課題と今後の取組		平成22年度は、地質及び植生の調査を実施した後、策定委員会の委員の意見を集約して、保存管理計画策定報告書を作成する			

事務事業名		青少年ボランティア育成事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		カ 次代を担う青少年の健全育成			
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生き育てるために			
光市行動計画：個別目標		1 地域で育てる			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価	
当初予算額 (単位:千円)	338	338	338		
最終予算額 (補正等含む)	413	364	-		
決算額 (単位:千円)	413	364	-	A・ B ・C・D	
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		決算額が当初予算額を上回ったが、概ね予定どおり講座を実施した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 中学1年生(中学生リーダー養成講座)・中学2年生～高校3年生 (光ジュニアクラブ)			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 光市青少年ボランティア育成協議会のもと、中学生リーダー養成講座・光ジュニアクラブを対象に、自然体験や社会参加体験を通じてボランティア活動を行い、自己を磨き、高めながら、社会に奉仕できるリーダーを育成する			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 教育キャンプや子ども会大会支援や、障害者施設訪問など自主企画活動を13講座行い、自立心を持たせるリーダー育成に努める			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		リーダーの人数は、年々増えてきており、光市における中学生リーダーの認知度は高くなってきているが、事業目標に沿ったリーダー育成には、時間をかけて高めていく必要性を感じる			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	目標登録者数 110人	目標登録者数 110人	目標登録者数 110人	
	実績値	116人	166人	-	
	達成率(%)	105%	151%	-	
目標指標に対する達成率の説明		総合計画に掲げた中学生リーダーの目標登録者数に対する、実際の登録者数により算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		講座以外の支援活動等幅広い活動の場面があるため本事業への関心が高まっており、総合計画に掲げた当初の目標より加入者が大幅に増加した			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		リーダーとしての講座参加以外にも支援ボランティア参加も増え、経験を重ねるごとに、成長してきており、中学生リーダー養成講座・光ジュニアクラブ活動が、学校・地域、市外からも評価されており活動への関心が高まったため、A評価とした			
A・B・C・D					
※ 課題と今後の取組		学校行事、部活動との兼ね合いも含め、講座の日程、内容等の調整が大切である。また、次世代の光市のリーダー育成のためにも多くの生徒の入会が大切ではあるが、目的をしっかりと持って入会してもらうことが重要である。			

事務事業名		留守家庭児童教室(サンホーム)増設事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		カ 次代を担う青少年の健全育成			文化・生涯 学習課
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生み育てるために			
光市行動計画：個別目標		1 地域で育てる			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	-	28,481	5,397		
最終予算額 (補正等含む)	-	26,800	-		
決算額 (単位:千円)	-	26,585	-		
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		当初の計画どおりに予算を執行した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 保護者が就労等で昼間家庭にいない小学校低学年児童(1～3年生)			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 適切な遊びと生活の場を提供し、児童の健全育成を図り、サンホームへの入所申し込みがあった児童について、原則、すべての児童を受け入れている その結果、一部のサンホームにおいて、定員を大幅に超過している状況であるため、その解消を図る			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 現状及び将来の入所児童数の見込等を勘案した上で、大幅な定員超過となっているサンホームについて、第2サンホームを増設し、定員超過の解消を図る			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		開設場所の確保ができた浅江及び島田小学校において、第2サンホームを開設した			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	-	増設予定 2か所	増設予定 1か所	
	実績値	-	増設 2か所	-	
	達成率(%)	-	100%	-	
目標指標に対する達成率の説明		各年度における増設予定数に対する増設済数に基づき達成率を算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		予定どおり、浅江第2及び島田第2サンホームを開設した			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		上記①～③のとおり、概ね、当初予定通りの事業を実施することができたため、B評価とした			
A・B・C・D					
※ 課題と今後の取組		定員超過となっているサンホームについては、今後の入所児童の見込等を勘案しながら、整備計画の検討を行っていく			

事務事業名		光市成人のつどいの開催			部課名
光市教育委員会：重点施策		カ 次代を担う青少年の健全育成			文化・生涯 学習課
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生み育てるために			
光市行動計画：個別目標		1 地域で育てる			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	1,213	1,213	1,213		
最終予算額 (補正等含む)	1,213	1,213	-		
決算額 (単位:千円)	1,057	1,077	-		Ⓐ・B・C・D
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		当初予算に対して概ね予定通り予算を執行した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 新成人(平成元年4月2日から平成2年4月1日生まれの者)			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 青年団等の関係者及び若者の代表等による「成人のつどい企画運営委員会」を設置し、若者たちの意見を取り入れた新成人の祝賀にふさわしい「成人のつどい」を実施し、多くの新成人の参加を得る			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 新成人をお祝するため、1月第2日曜日(成人の日の前日)にセレモニーと交歓会の2部構成により、成人のつどいを開催 市内に住所を有する対象者は案内通知を行うとともに、広報やHP掲載により市外からの参加希望を受け入れる			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		成人つどい企画運営委員会で、「Believe」をテーマとして「信じよう！自分の光」をスローガンに掲げ、平成22年1月10日(日)に開催した			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	対象者数 624人	対象者数 566人	対象者数 約500人	
	実績値	491人	406人	-	
	達成率(%)	78.7%	71.7%	-	
目標指標に対する達成率の説明		対象者に対する参加者の割合を算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		参加率は7割を超えているが、参加者は減少傾向にある、ただし、「成人のつどい」の内容については評価できる			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		成人の参加率は減少したが、若者たちの意見を取り入れた新成人の祝賀にふさわしい「成人のつどい」となるよう企画し、新成人式研究会主催の「成人式大賞」において、内容等高い評価を得て、大賞に続く「成人式準大賞」を2年連続で受賞したことから、B評価とした			
A・Ⓑ・C・D					
※ 課題と今後の取組		今後も内容等の充実を図る上で、「成人のつどい企画運営委員会」の中で、若者たちの意見を取り入れながら、参加したくなる成人のつどいにしたい			

事務事業名		資料の充実と図書館の整備			部課名
光市教育委員会：重点施策		キ 生涯学習、情報発信の拠点としての図書館の充実			図書館
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		2 彩り豊かな人づくりのために			
光市行動計画：個別目標		1 生涯学習社会の構築			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	12,000	12,000	12,000		
最終予算額 (補正等含む)	12,000	12,000	-		
決算額 (単位:千円)	12,000	11,972	-		
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		平成21年度は、当初予算額のとおり予算を執行した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 市民全般			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 図書館資料の継続的な充実を図るとともに、高度検索機能の整備やレファレンスサービスの充実など、市民が利用しやすい図書館となるよう、サービス機能の向上整備に努める			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 活字離れが深刻化している中、子どもを中心とした読書の習慣の育成や読書相談などを展開するとともに、学校図書館や公民館等との連携を進めることにより、市民の読書環境の整備充実に努める			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		資料について、子どもの基本図書の買い替えやレファレンス資料などの購入に努めた			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	購入予定6,000冊 目標蔵書数167,000冊	購入予定7,000冊 目標蔵書数168,000冊	購入予定7,000冊 目標蔵書数169,000冊	
	実績値	購入5,874冊 廃棄4,004冊 蔵書数171,721冊 図書貸出数232,955冊	購入図書7,167冊 廃棄図書2,155冊 蔵書数176,736冊 図書貸出数259,476冊	-	
	達成率(%)	103%	105%	-	
目標指標に対する達成率の説明		総合計画に掲げた目標蔵書数に対する、実際の蔵書数により算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		図書資料について当初の予定通り購入・廃棄等を実施し、目標蔵書数を達成した			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		図書館資料は、子どもの基本図書の買い替えやレファレンス資料の増加により、蔵書数は平成20年度末で171,721冊、平成21年度末で176,736冊となり、目標蔵書数を達成し、また、貸出数についても昨年度を上回ることができたため、B評価とした			
A・B・C・D					
※ 課題と今後の取組		生涯学習において、市民が積極的に読書活動を行う意欲を高めるために、あらゆる機会をとらえて啓発・普及を図る			

事務事業名		子ども読書活動の推進事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		キ 生涯学習、情報発信の拠点としての図書館の充実			図書館
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		2 彩り豊かな人づくりのために			
光市行動計画：個別目標		1 生涯学習社会の構築			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	73	74	71		
最終予算額 (補正等含む)	73	74	-		
決算額 (単位:千円)	72	73	-		A・ B ・C・D
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		当初計画していた子ども読書活動推進講演会を予定通り実施した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 乳幼児から小学生、中学生、高校生と読書ボランティア並びに子どもに関わる保護者			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) ①子どもが読書に親しむための機会の提供と充実 ②子どもの読書活動を推進するための環境の整備・充実 ③子どもの読書活動を支える人の育成 ④子ども読書活動推進についての啓発・広報の4つの基本目標に基づき具体的な取り組みを進める			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 「子どもの読書活動推進計画」に沿って乳幼児向けの絵本を整備し、乳幼児とその保護者に本の大切さを伝えるためのボランティア養成講座などを開催するとともに、図書の出し、行事の実施等を通して、図書館の児童サービスを充実させる			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		乳幼児コーナーでは、赤ちゃん絵本、児童図書(絵本)の充実を図り、子どもの基本図書の買い替えを行った。さらに、読み聞かせを行っている個人・団体のスキルアップを図るため、「子どもの読書活動推進講演会」、「昔話セミナー」や「おはなし会」などを実施した			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	講演会、ボランティア養成講座、出前おはなし会、訪問おはなし会、乳幼児のお話会等22回 目標参加者数750人	講演会、ボランティア養成講座、出前おはなし会、訪問おはなし会等20回 目標参加者数750人	講演会、読み聞かせ講座、出前おはなし会、訪問おはなし会等20回	
	実績値	1,063人	712人	-	
	達成率(%)	142%	95%	-	
目標指標に対する達成率の説明		子どもと子どもの本に関わる人、読書指導者、幼児指導者を対象に子どもの読書環境について、講演会、セミナー、出前おはなし会、訪問おはなし会など20回実施し、参加者数により算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		平成18年3月に策定した子ども読書活動推進計画に基づき、広く市民に活用され、いつでも、誰もが利用しやすい施設として、図書館資料・情報の収集に努めた			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		①～③のとおり、光市子ども読書活動推進計画に基づき、概ね年度当初の目標どおり事業を実施することができたため、B評価とした			
A・ B ・C・D					
※ 課題と今後の取組		平成22年度中に、子ども読書活動推進計画の事業の検証と見直しを行い、第2次子ども読書活動推進計画の策定をする			

事務事業名		市主催体育行事の実施			部課名
光市教育委員会：重点施策		ク 伸びゆく力を育てるスポーツ・レクリエーションの振興			体育課
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		2 彩り豊かな人づくりのために			
光市行動計画：個別目標		2 スポーツ・レクリエーションの振興			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	2,816	2,320	2,294		
最終予算額 (補正等含む)	2,962	2,377	-		
決算額 (単位:千円)	2,899	2,328	-		
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		平成21年度は決算額が当初の予算額を上回ったが、これはスポーツ優秀選手表彰者が増加したことによるもので、他の行事等においては概ね予定通り予算を執行した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 市民全般			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) より多くの市民に体育行事に参加していただくことにより、コミュニティの醸成と健康づくり(健康の維持増進)を図る			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 市内各体育団体、体育指導委員協議会、公民館や学校との連携を図り、市民の誰もが気軽に参加できるよう、各種の体育行事を企画し、円滑な実施を図る			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		グラウンドゴルフ大会、市民体育大会、ひかりふるさとウォーク、ソフトバレーボール大会、小学生駅伝大会、光市駅伝大会、周南駅伝大会、梅まつりコバルトウォーク、藤公の里マラソン大会、スポーツ優秀選手表彰 以上10大会(事業)を実施した			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	目標大会参加者数 4,500人	目標大会参加者数 4,600人	目標大会参加者数 4,700人	
	実績値	大会参加者 4,597人	大会参加者 4,644人	-	
	達成率(%)	102%	101%	-	
目標指標に対する達成率の説明		年度当初の年間実施計画に基づき各行事を実施し、大会参加者数から達成率を算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		各行事とも、予定通りに開催し概ね目標とする参加を得ることができた。ウォーキングや駅伝大会の参加者が増加傾向にあり、各大会の定着化が図れた			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		上記①～③のとおり、各行事とも円滑な大会運営を図ることができ、概ね当初目標どおり達成できたため、B評価とした			
A・B・C・D					
※ 課題と今後の取組		ウォークやランニング大会の定着化が見られる一方、ニュースポーツ等の普及を図るなど、より多くの市民の参加が得られるよう、魅力ある行事の開催に努める			

事務事業名		関係団体との連絡調整とスポーツ活動の支援			部課名
光市教育委員会：重点施策		ク 伸びゆく力を育てるスポーツ・レクリエーションの振興			体育課
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		2 彩り豊かな人づくりのために			
光市行動計画：個別目標		2 スポーツ・レクリエーションの振興			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	8,259	8,259	8,259		
最終予算額 (補正等含む)	8,259	8,259	-		
決算額 (単位:千円)	8,259	8,259	-		
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		当初予算どおり執行した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 市民スポーツ活動関係団体 ・体育指導委員協議会・体育協会・スポーツ少年団 ・県民スポーツ総参加運動推進委員・市内各公民館体育部			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 関係団体等と連絡調整を図り、市民のスポーツ活動を支援する体制づくりを進める一方、ニュースポーツ等の普及啓発を図りスポーツへの関わりの機会を増やし、より一層のスポーツ振興を図る			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 各種スポーツ大会開催及び大会派遣助成を行うとともに、各団体との連絡調整を行い、指導者や各団体の育成を図る。また各団体等の協力を得ながら競技スポーツ以外のニュースポーツ等の普及や啓発を行い、市民のスポーツ参加を促す			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		体育協会加盟団体への大会開催や国体等の全国大会、中国地区大会及び県大会への派遣助成を行った また、各団体との連絡調整会議を実施し各団体の協力のもと、ニュースポーツの普及を図るなど市民のスポーツ活動の普及と推進を図った			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	連絡調整及び助成件数 370件	連絡調整及び助成件数 380件	連絡調整及び助成件数 390件	
	実績値	連絡調整及び助成件数 371件	連絡調整及び助成件数 388件	-	
	達成率(%)	100%	102%	-	
目標指標に対する達成率の説明		関係団体との連絡調整に係る会議及び各団体等への助成予定件数に対する実施件数に基づき達成率を算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		各団体との連絡調整を良好に実施でき、関係団体等への各助成件数は予定件数を上回り、市民へのスポーツ振興を図ることができた			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		上記①～③のとおり関係団体との連絡会議等を実施するとともに、市民のスポーツ活動に対する支援や普及、推進を図ることができたため、B評価とした			
A・B・C・D		A・B・C・D			
※ 課題と今後の取組		今後も、各関係団体との連絡調整を図りスポーツの振興を図る			

事務事業名		体育施設の管理及び開放事業の促進			部課名
光市教育委員会：重点施策		ク 伸びゆく力を育てるスポーツ・レクリエーションの振興			体育課
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		2 彩り豊かな人づくりのために			
光市行動計画：個別目標		2 スポーツ・レクリエーションの振興			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	120,617	127,176	126,991		
最終予算額 (補正等含む)	120,617	127,176	-		
決算額 (単位:千円)	120,500	127,004	-		
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		施設管理委託料が下回ったため決算額が当初予算額を下回ったが、概ね予算どおり執行した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 市民のスポーツ活動の拠点としての体育施設の管理及び学校体育施設開放事業の実施			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 市民がよりスポーツに親しめる環境づくりを推進するため、効率的な施設の管理運営を行う。また地域の身近な体育施設として学校体育施設開放事業の有効な活用を図る			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 指定管理者制度による体育施設の効率的な管理を図り、施設利用者のサービスの向上を図る また、学校体育施設開放事業の促進を図り、市民のスポーツ活動の場の充実を図る			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		光市スポーツ振興会(光市総合体育館、光スポーツ公園、大和総合運動公園)、NPO法人ひかりクラブ(勤労者体育センター)、光中高年事業団(サン・アビリティーズ光)が指定管理者として各施設の管理運営あっているが、概ね良好な運営が図れている 学校開放事業についても、スポーツ少年団や一般のスポーツ団体など多くの市民が活用した			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	使用件数(利用者数) 33,000件(590,000名)	使用件数(利用者数) 33,500件(600,000名)	使用件数(利用者数) 33,500件(600,000名)	
	実績値	使用件数(利用者数) 34,156件(610,232名)	使用件数(利用者数) 33,226件(589,645名)	-	
	達成率(%)	104%(103%)	99%(98%)	-	
目標指標に対する達成率の説明		使用件数(利用者数)当初予定値に対する実績値に基づき達成率を算出			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		各施設ごとに使用件数および利用者数の多少の増減はあったものの、概ね例年通りの使用があった (全体で使用者数の減少が見られた点については、学校体育館耐震化工事が一つの要因と考えられる)			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		上記①～③のとおりほぼ例年と同様の体育施設運営ができたものと考えられ、特に学校施設開放事業は広く市民のスポーツ活動の場として利用されたため、B評価とした			
A・ B ・C・D					
※ 課題と今後の取組		体育施設に関しては、無料の施設が大半を占めるため、使用予約でいっぱい状況である、各使用者の利用状況を把握し、より多くの市民にスポーツ活動の場の提供ができるよう検討する			

事務事業名		地産地消の推進			部課名
光市教育委員会：重点施策		ケ 自然の恵みに感謝する心を育む学校給食の充実			給食センター
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを産み育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価	
当初予算額 (単位:千円)	-	-	-		
最終予算額 (補正等含む)	-	-	-		
決算額 (単位:千円)	-	-	-	A・B・C・D	
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		予算を伴う事業ではないため、記載していない			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 児童・生徒へ提供する学校給食において、地場産食材の積極的な活用			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 学校給食に地場産食材を利用し、児童・生徒に味わってもらうことにより、感謝の気持ちの育成や地域の産物への理解などの「食育」推進に努めるとともに、農業振興への貢献を図る			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 農業関係団体等と連携を図り、極力地場産食材の購入に努めるとともに献立を工夫することにより、学校給食における地場産食材の使用率の上昇を図る			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		農業関係団体等と連携して地場産食材の購入に取り組むことにより、目標としている地場産食材の今年度の目標数値の40%以上を達成した。また、栄養士による学校巡回訪問で地産地消についての「食育」指導を行った。			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	地場産食材目標使用率 35%	地場産食材目標使用率 40%	地場産食材目標使用率 45%	
	実績値	地場産食材使用率 40%	地場産食材使用率 44.5%	-	
	達成率(%)	114%	111%	-	
目標指標に対する達成率の説明		地場産食材の使用について、目標値による達成率を算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		平成23年度における地場産食材使用率50%以上を目指して、年度ごとに定めた目標値に到達している			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		上記②、③のとおり、今年度の当初目標をやや上回る使用率を達成していることから、B評価とした			
A・B・C・D					
※ 課題と今後の取組		引き続き、地場産食材の使用に努め、安全性の高い学校給食の提供に努めていく			

事務事業名		施設・設備の充実			部課名
光市教育委員会：重点施策		ケ 自然の恵みに感謝する心を育む学校給食の充実			給食センター
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを産み育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	1,100	3,000	800		
最終予算額 (補正等含む)	1,160	31,400	-		
決算額 (単位:千円)	1,160	30,308	-		A・ B ・C・D
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		地域活性化・経済危機対策臨時交付金を活用して、当初予定を大きく上回る学校給食備品の購入・更新を実施した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 児童・生徒に対する学校給食の充実を図るため、給食用備品の整備を行う			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 配送時間等による時間経過に伴う調理品の温度の下降、上昇を防ぐため、給食用備品等を購入・更新することにより、適温給食の実現を図る			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 適温給食の実現のために、二重食缶などの保温保冷備品を購入・更新を行う			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		当初予定していた二重保温米飯缶(不足分55缶)と二重保温食缶(更新分18缶)に加え、各学校に保冷庫を設置(17機)するとともに副菜用保温保冷用食缶を全学校分(200缶)購入し、更に全学校に米飯缶を二重保温米飯缶(140缶)に更新し、適温給食の提供に努めた			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	光に包丁・まな板専用殺菌保管庫(1機)、光と大和の温食用二重保温食缶(32缶)の取替更新	二重保温米飯缶(55缶)、二重保温食缶(18缶)の購入	破損二重保温食缶(32缶)の取替更新	
	実績値	上記の予定どおり実施。	二重保温米飯缶(195缶)、二重保温食缶(18缶)、副菜用保温保冷食缶(200缶)、保冷庫(17機)等の購入	-	
	達成率(%)	-	-	-	
目標指標に対する達成率の説明		-			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		当初予定していた購入・更新予定に加え、地域活性化・経済対策臨時交付金を活用することにより、二重保温米飯缶、二重保温食缶、副菜用保温保冷食缶、保冷庫等を購入			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		当初予定を大幅に上回る備品整備を行うことができ、適温給食提供のための備品をほぼ整備することができたことにより、A評価とした			
Ⓐ・B・C・D					
※ 課題と今後の取組		引き続き学校給食の充実のため、必要な設備備品の更新を行っていく			

事務事業名		光市学校給食会補助			部課名
光市教育委員会：重点施策		ケ 自然の恵みに感謝する心を育む学校給食の充実			
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを産み育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	878	15,400	18,400		
最終予算額 (補正等含む)	8,778	16,300	-		
決算額 (単位:千円)	8,778	15,968	-		A・B C・D
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		概ね予定通り予算を執行			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 児童・生徒への学校給食の充実を図るため、光市学校給食会に対して給食加工費の一部を補助			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 給食加工費の補助を行うことで、児童・生徒への学校給食の充実を図るとともに米飯調理設備の有無による大和学校給食センターと光学校給食センターの格差を解消することにより、給食内容のセンター間格差を解消する			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 米飯調理設備のない光学校給食センター分として米飯加工格差分(1食当たり37円)とパン包装代金の半額(1食当たり2円)の補助、大和学校給食センター分としてパン包装代金の半額(1食当たり2円)の補助を行う			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		補助を行うことにより、米飯及びパン包装に係る加工費を食材購入に充てることができ、事業の目標である給食の充実及びセンター間格差の解消に努めた			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	-	-	-	
	実績値	-	-	-	
達成率(%)		-	-	-	
目標指標に対する達成率の説明		-			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		事業に対する目標数値の数値化が困難であるため、達成率を算出していない			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		上記①、②のとおり事業の目標を達成できたことから、B評価とした			
A・B・C・D					
※ 課題と今後の取組		今後も、光市学校給食会への給食加工費の補助を継続し、学校給食の充実に努める			

事務事業名		光市学校給食施設の整備			部課名
光市教育委員会：重点施策		ケ 自然の恵みに感謝する心を育む学校給食の充実			
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを産み育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	-	-	143		
最終予算額 (補正等含む)	-	-	-		
決算額 (単位:千円)	-	-	-	A・B C・D	
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		平成21年度は予算を伴っていないので、記載していない			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 児童生徒へ学校給食を提供する施設の整備を行う			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 国の衛生管理基準が強化され、施設の老朽化により、施設の見直しが必要となってきた光市の学校給食施設の整備に向けて、関係者による「検討委員会」を設置し、検討を行う			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) 学校関係者、保護者、栄養士など13名による「光市学校給食施設整備検討委員会」を設置し、光市の学校給食施設の整備内容について平成21年度と22年度で協議・検討を行い、市に対して報告書を提出する			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		「光市学校給食施設整備検討委員会」を3回開催し、平成22年2月には中間報告書をまとめ、「センター方式」が望ましいという中間報告を市長に行った			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	-	検討委員会を設置し、 検討を行う	今年度中に検討委員会 としての方向性を示す	
	実績値	-	検討委員会として、市に中 間報告を提出した	-	
達成率(%)		-	100%	-	
目標指標に対する達成率の説明		当初予定していた通り会議を開催して市長に中間報告を提出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		検討委員会を設置し、3回の協議を経たのち中間報告書を提出し、概ね目標を達成した			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		「光市学校給食施設整備検討委員会」として、協議を重ね、中間報告を行い、事業の目標を達成したことから、B評価とした			
A・ <u>B</u> ・C・D					
※ 課題と今後の取組		平成22年度も引き続き検討委員会において協議し、施設整備に係る一定の方針を提案する予定 その提案をうけて、市としての基本構想作成に着手する			

事務事業名		光市の教育課題についての調査研究事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		コ 教育開発研究所における調査研究の充実・深化			教育開発 研究所
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生み育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	560	540	540		
最終予算額 (補正等含む)	560	540	-		
決算額 (単位:千円)	455	485	-		A・B C・D
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		予算に対する決算の割合は前年度が81%であるのに対し、今年度が90%であり、概ね順調に事業を実施した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 光市の児童生徒の豊かな成長を図るための調査研究の対象は、次の3点である(1)教育環境(2)指導方法(3)小・中連携についての改善の視点、方向の解明			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) (1)については、教育水準の向上に向けての学校のあり方を明らかにする(2)については、「言語力の育成」「道德教育の充実」「学級づくり」等のカテゴリーから授業改善の方法を明らかにする(3)については外国語活動及び生活習慣・学習習慣を通して小・中連携のあり方を明らかにする			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) (1)については、教育成果(学力、心、体力)と教育環境(学校規模)との関係を分析する(2)については、授業実践を通して方法を明らかにする(3)外国語活動においては、先行事例や文献を通して、生活習慣・学習習慣についてはアンケート調査をし、分析することにより明らかにする			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		(1)については、学校規模によって教育成果に差が見られないことを明らかにし、新しい教育システムの構築の必要性を提言した(2)については、アイデア集風にまとめ、提言した(3)の外国語活動についてはリーフレットを作成し、啓発した。また、生活習慣・学習習慣については、5点の習慣づけを提言した			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	-	-	-	
	実績値	-	-	-	
目標指標に対する達成率の説明		達成率(%)			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		(1)については、学校規模と教育成果の関係が明らかになっているが継続的な研究が必要である(2)については、授業改善の方法を5つの観点から明かにしている、広く検証が必要である(3)については小・中の具体的な方略を示すことができた			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		調査研究対象(1)～(3)について、一定の研究成果を示すとともに、今後の課題も明らかになっているため、B評価とした			
A・ B ・C・D					
※ 課題と今後の取組		調査研究対象の適時性と発展性及び実証的事実の有効性を高める			

事務事業名		第3回教育フォーラムin光			部課名
光市教育委員会：重点施策		コ 教育開発研究所における調査研究の充実・深化			教育開発 研究所
光市行動計画：基本目標		II 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生き育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)		平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価
当初予算額 (単位:千円)	284	316	253		
最終予算額 (補正等含む)	284	316	-		
決算額 (単位:千円)	206	293	-		A・B・C・D
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		予算に対する決算の割合は前年度が73%であるのに対し、今年度が93%であり、概ね順調に事業を実施した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 光市の教育について共に考える契機とするため、学校関係者、家庭、地域を対象に実施			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 光市の学校教育の現状について、学校関係者、家庭、地域が共有できるようにする。また、教育シンポジウムにおいて「特別支援教育を考える」というテーマで協議することにより、子ども一人ひとりの特性を生かす教育の在り方について考える日とする			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) (1)教育フォーラムの実施について広く広報する (2)フォーラムにおいて児童生徒の学習発表、作品展示を行う (3)フォーラムの中のシンポジウムにおいて学識経験者、学校関係者、NPO法人の人の意見を聞き、特別支援教育の在り方について考えてもらう			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		(1)参加者数であるが、受付名簿に学校関係者280名、保護者395名、及び一般市民、教育関係者36名、合計711名の記録が残っている、(2)と(3)の内容については、プログラム通りの実施ができた			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	参加予定人数 886人	参加予定人数 886人	参加予定人数 886人	
	実績値	700人	711人	-	
	達成率(%)	79%	80%	-	
目標指標に対する達成率の説明		市民大ホール満席数886を当初予定値とし、実績値を受付名簿に記録のある参加者数で達成率を算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		(1)参加者数については、目標人数の886名の約8割の参加者があった、内容については、客観性の確保が困難なことから目標指標に含めない			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		参加率は、概ね昨年度と同程度であり、また、シンポジウムにおいて、子ども一人ひとりの特性を生かす教育の在り方について十分に啓発ができたため、B評価とした			
A・ B ・C・D					
※ 課題と今後の取組		教育シンポジウムのテーマの検討と参加者の満足度についての客観性の確保をする			

事務事業名		教職員の職場体験研修派遣事業			部課名
光市教育委員会：重点施策		コ 教育開発研究所における調査研究の充実・深化			教育開発 研究所
光市行動計画：基本目標		Ⅱ 人を育み人が活躍するまち			
光市行動計画：重点目標		1 子どもを生き育てるために			
光市行動計画：個別目標		2 学校で培う			
	平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	平成20年度 光市教育委員会 事務点検・評価 報告書の評価	
当初予算額 (単位:千円)	10	15	15		
最終予算額 (補正等含む)	10	15	-		
決算額 (単位:千円)	8	13	-	A・B・C・D	
① 予算・決算額から見た 平成21年度の実施状況		概ね予定どおりに予算を執行し、事業を実施した			
事業の内容	事業の対象	(何を対象としてこの事業を行うのか) 教職員を対象に異業種の職場における体験を通して教職員としての資質の向上を図る			
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか) 異業種の人とのかかわりを通して、社会の変化を敏感にキャッチする感覚や物事を多角的にみることのできる資質や能力を高める			
	事業の実施方法	(どのように目標を実現していくのか) (1)光ロータリークラブに職場体験受入れの協力を依頼をする (2)教職員は協力企業や施設等を選択し、応募をする (3)応募した教職員は、それぞれの企業や施設等で職場体験をし、その成果を報告する			
② 事業の目標に対する 平成21年度の実施状況		10名の教職員が1日～3日間の職場体験をした。寺院で読経・写経や座禅を体験した教員は「自分自身を見つめ直す機会となった」また、企業で職場体験をした教員から「地域で働く人々の思いや願いを知ることができた」等の報告があった			
目標指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度(予定)	
	当初予定値	参加予定人数 10人	参加予定人数 10人	参加予定人数 10人	
	実績値	4人	10人	-	
	達成率(%)	40%	100%	-	
目標指標に対する達成率の説明		参加人数10名を当初予定値と、参加者数で達成率を算出した			
③ 平成21年度における 目標指標の達成状況		目標とした10名の研修派遣を実施した (内容については、報告書により確認できるが、数値化が困難なため目標指数には含めない)			
上記①～③を踏まえた 平成21年度の総合評価と理由		目標人数の10名を研修に派遣し、報告書から、有意義な研修であったことが確認できることから、事業の当初目標を十分達成できたため、B評価とした			
A・B・C・D					
※ 課題と今後の取組		光ロータリークラブとの連携強化と中学校教職員の参加への啓発をする			

2 学識経験者による意見

光市教育委員会事務評価委員会における委員からの意見は以下のとおりです。

(1) 点検・評価の各項目について

- ・ア(ア)小中学校施設耐震化事業については、耐震化計画の実施に少し遅れが出たということの評価が下がったが、C評価まで下げなくてもよかったと思う。また、ア(イ)小中学校管理事業についてはB評価となっているが、多くの予算を確保して事業を実施できたということであり、これまで確保できなかった予算の分まで事業を実施できたということで、大変頑張っていたと思う。
- ・ア(ウ)小中学校教育振興事業については、学校図書蔵書数を増やすことで、標準の充足率を改善したとのことであるが、どのように活用させていくかということが重要だと思われる。現在、図書指導員を学校に派遣しているということであるが、学校の教員が、この環境をどのように授業を通して活用していくかという面で、学校教育現場と教育委員会とが連携していくことが重要だと思う。
- ・イ(イ)やまぐち学校教育支援員、及びイ(ウ)学力向上支援員の派遣について、派遣人数の達成度は十分ということであるが、生徒にとっての達成度が分かりにくい。生徒の反応を学校のほうで記録し、また、「どの学級」で「どういった効果」が出たかについても報告を求めているということであるので、生徒から見た達成度についてもこの点検評価シートから分かるようにしていただきたい。
また、学力向上支援員について、21年度の派遣人数7人から、22年度の派遣予定が2名に減ったのは、県の予算が足りない為の減員とのことであるが、点検評価シートからは、事業の成果があがったということで派遣人数が減ったという風にも解釈できるので、分かりやすいよう改善していただきたい。
- ・イ(エ)心療カウンセラー派遣について、年12回派遣を実施したということであるが、例えば20件の要請で12回派遣したのと、50件の要請で12回派遣したのとでは、同じ評価にはならないと思われる。派遣を実施できたところはよいが、派遣できなかったところが増えているのであれば、氷山の海面下の部分が増えているということになる。実際には県も12回分以上について工面している部分があるとのことであり、そのあたりの実態が分かるよう工夫していただきたい。
- ・イ(ク)光市グローバル化プランについて、2名の指導補助員と学校の教員とが直接交流し、交流等で難しい点があれば、教育委員会でフォローしているということであるが、引き続き学校の教員との打合せを含め、円滑に事業が推進されるよう努めていただきたい。

また、学級担任として授業をする教員の語学力や英語の授業力についての強化が重要だと思う。教員の資質向上のための研修等行っていると伺ったが、子どもの実情を知っている教員の力が重要となると思うので、引き続き、軸となる教員の資質を高めることに努めていただきたい。

- ・ウー(イ)光市人権を考えるつどいの開催について、課題と今後の取組に、「23年度以降、喫緊の課題や市民のニーズを把握し」とあるが、人権教育を考える上で、具体的に何を課題として捉え、また、市民のニーズというのはどういったところにあるか、という点は大変重要な事であり、またそこに目を向けないと、ずっと B 評価のままであると思う。やはり A 評価というものを目指すべきであり、これを実践していただきたい。

また、学校 PTA 関係者など、積極的に参加をされる方もいるが、なかなか一般の方が動かない、動けないということがある。学校自体で人権教育というものを考えていくときに、一般の保護者の方々について、何をどうやったらもっと動けるようになるのか、というのが、大きな課題であり、そのあたりの調査が必要なのではないかと思う。

- ・エー(ア)生涯学習推進事業、エー(ウ)光市情報学習推進協議会協働事業について、光市においてはこまめに講座が開催されているが、少し講座内容について見直していかなければいけない時期に来ているのではないかと思う。特に、情報学習については、小・中・高と児童・生徒向けの情報学習が進んでおり、また、家庭にもパソコンは普及しており、これまでパソコンに触れる機会のなかったご家庭の方についてもお子さんを通じて基本的な操作をできる人が増えてきているという実態がある中、いつまでも初心者向けの学習内容を続ける時期ではなくなってきたのではないかと思う。行政が講座を開催するということであるので、税等の電子申請のようなものを対象にする等、何をするのかという講座の目的を明確にしていく必要があると思う。

- ・エー(イ)放課後子ども教室について、新たな教室を実施できなかったのは、実際の地域からの要望がなかったということであるが、子どもに関連する事業は、市民の関心も非常に高いということもあるので、評価が下がる項目については、下がった原因について、それを改善するための対策をはっきりとさせておく必要があるのではないか？

このあたりをきっちりしておかないと、評価が下がっただけということで終わってしまい、次年度に何も生かされないという恐れがあると思う。次へのステップへ進むための点検評価であるので、よかった所はそれで継続するとして、評価が下がって、改善が必要な項目については、原因と対策を漠然と書くのではなく、分析した上できちんとそれを明記して、次への展開を明確にしていくことが必要であると思う。

- ・エー(エ)公民館の自主運営への移行事業について、課題と今後の取組のところ、自主運営体制の確立に向けたサポートの充実、とあるが、自主運営へ全て移行が済んだとい

うことで、このサポートというのが重要となってくると思う。地域選出の公民館主事は、不慣れな点が多々あり、地域づくり推進課でフォローしていく体制が必要だと思う。

- ・オー(イ)伊藤博文公没後 100 年記念事業については、参加者も非常に多く、市外の方も多く来られていた。これ以上をやるというのはなかなか難しいのではないかと思う。光市の人口 5 万 4 千人ということから考えると、1 日の行事に約 1 万 4 千人の方が何らかの形で参加されたというのは、非常に評価できるので、A 評価でもよいのではないかと思う。
- ・カー(ア)青少年ボランティア(中学生リーダー)育成事業について、この事業の実施は本当に大変だと思うが、今ある講座数が 13 と、いろいろと幅広い内容のものが用意されており、子どもがどこかに関心を持って参加できるような形が準備されている。是非これを大事にしていただき、部活動との兼ね合いもあるかと思うが、参加できるときには参加するという環境が整えられればよいのではないかと思う。
なお、参加している中学生リーダー等について、講座へ参加している間だけということではなく、地域の活動等にも参加していく流れができるとよいのではないかと思う。地域の子どもとしての地域貢献といったことへ意識が向いていくと、よりよい活動になるのではないかと思う。
- ・カー(イ)留守家庭児童教室(サンホーム)増設事業について、共働きが多い現代の家庭環境からすれば、どうしても入所児童が増える傾向にあると思うが、サンホームの定員をもう少し増やす必要があるのではないかと思う。この事業については、二箇所を増設する目標で二つ建設できたから 100%の達成となっているが、入所の要望としてもっと定員が増えたほうがよいということであれば、来年度については、そのあたりを課題としてあげて、これに向けて取組をしていって欲しいと思う。これから入所希望児童が増えていくということであれば、それに対応できるようがんばっていただきたいと思う。
- ・カー(ウ)光市成人のつどいの開催は、光市が胸をはって誇れるものであると思う。実際に他市町の成人の式典もしくはつどいに出席したが、光市のつどいはダントツに良い。参加した新成人からすると、非常に参加実感があるものになっていると思う。参加者が減少傾向であるというのは事実かもしれないが、さほどその数字ばかりにとらわれなくてもいいのではないかと思う。参加したくなる成人のつどいというのも確かに重要であるが、つどいに参加した成人が、内容をどういう風に関心、捉えているのかという点が、今後に向けて重要なところだと思う。
- ・キー(ア)資料の充実と図書館の整備について、数値的な指標を見る限りでは、予算的にも毎年相当な金額の蔵書の更新を行って順調に蔵書数を増やし、図書貸出数も増加の傾向

にあるように見受けられるが B 評価となっている。これを A 評価にしていくためには、市民や学校と、図書館との間の、利用を前提とした距離が縮まる施策が必要だと思う。図書館にはどのような基礎資料があり、どういった学習に利用・活用できるものがある、という情報の提供を、これまで以上に充実させ、また、参考資料や調べ学習に使うような書籍の案内などを、現在の新刊案内に加えて、学校へ周知・連絡に努めていただきたい。そうすることで、学校の図書館担当であるとか、あるいは教科担当の先生が「図書館にはこういう資料が揃っているから行って見てごらん」と言えるような環境を整えていけば、図書館の機能がより高まり、理想的な形になるのではないかと思う。

- ・ク(ア)市主催体育行事の実施については、さまざまな年齢の市民が参加できる形で開催しておられ、内容も大変充実しており、また参加者もかなりの数に上っているのに加え、これらの行事が市の中にしっかりと定着してきている。「そろそろあの行事がある」と楽しみに待っておられる方もおられ、行事が非常に活発に行われているのを感じている。

- ・ク(ウ)体育施設の管理及び開放事業の促進について、指定管理者の管理運営は「概ね良好な運営が図れている」とのことであるが、申し込みをしても実際には利用できなかったということや、また実際に利用してみて満足したかどうかということもあると思う。実際の利用者の声というのは、モニタリングによる報告からは正確には分からないということであるが、この指定管理者の管理の状況は、市民や市議会へ公表するわけであるので、そのあたりがわかる形で点検評価をしていくとよいのではないではないか？

なお、施設等の利用者数が、年間約 60 万の方が利用されているということで、光市の人口約 5 万 4 千人から考えると、1 人あたり年間約 11 回、1 人が一月に一回近く利用している計算になり、これは大変すごいことだと思う。光市の活性化、光市の元気に繋がっているということで高く評価でき、B 評価でなく A 評価でもいいのではないかと思う。

- ・ケ(ア)地産地消の推進について、地場産食材使用率の目標が 40% であるのに対し実績が 44.5% ということであるが、A 評価でなく B 評価となっているのはなぜか？ 前회가、目標 35% に対して実績 40% で A 評価ということであれば、今回も A 評価でいいように思う。今年度の目標である 40% を達成しているものの、総合計画の目標である 50% に達していないということで B 評価としているということであれば、今年度の目標を 40% とするという設定が低かったということではないか？

感覚として、40% の目標に対し、44.5% という数字を達成できていて、他の内容等にマイナスの要素がない為、単純に考えると A 評価でいいのではないかと感じる。その辺が説明資料から分かりやすいように欲しい。

- ・コ(ア)光市の教育課題についての調査研究事業について、3 つのテーマに基づく部会研究と、学校における校内研修や授業研究等については非常に密接な関係があり、その

連携が非常に大事であると思う。指導主事の先生は、研究の各部会にサポーターという形で参加しているとのことであり、主任研究員も、授業研究などに積極的に行っていたきたい。

- ・コー(イ)第3回教育フォーラム in 光の開催における、課題と今後の取組において、客観性の確保ということ掲げているが、711人の参加があったということであるので、参加者のうちの100人くらいから、質問の観点を整理したうえでちょっとしたアンケートを取り、また、内容についての意見についても書き込めるようにすれば、ある程度の数値が出て、次回への活用が図れるのではないかと？

教育フォーラムの内容については、学習発表や、作品展示が充実しており、企画がよく練られていると思う。展示物等を、保護者の方がいろいろと話をしながら楽しそうに一生懸命見られていたので、このあたりはより充実させていっていただきたい。

- ・コー(ウ)教職員の現場体験研修派遣について、参加者の募集は希望方式によるものということで、自主的に希望をしないという教職員の方もおられると思う。他の研修等との兼ね合いもあるかと思うが、積極的な参加を求めているとしたい。なお、研修への参加を自主的に希望される教員であれば、意欲もあると思うので、自然と、研修の報告内容についても肯定的なものが多く出ると思う。希望して参加された先生方から、これはいいということで、職場で話を広げてもらい、いろいろな層に波及させていって欲しい。

(2) 点検・評価全体について

- ・A～Dという4段階で評価があるわけであるが、どこまでやったらA評価となるのかという基準を、始めにしっかりと決めておくことが必要ではないか？ 後から評価の理由というのを考えるというのはなかなか難しいところがあり、また、事前に決まっている目標に対しての事業の達成率といった評価の方法が、市民からみて分かりやすいのではないかと？ この点検評価は公表するものであると、市民が見られたときに、そのあたりが明確になっているということが大事であると思う。

3 今後の取組について

委員よりいただいた意見については、今後の施策に生かしていきたい。

また、今回の報告書については、A～Dの評価の根拠が事前に不明確であったという点があり、来年度以降は、この点がより明確となるよう改善し、分かりやすい報告書の作成に努めたい。

そして、この評価委員会自体を形だけのものとしないうちにも、各事業について、何のためにそれを実施するのかという目的意識をしっかりと持ち、事業を着実に実施していきたい。